

エスワティニ王国に安全で清潔な水を

在南アフリカ日本国大使館
(エスワティニ兼轄)



日本は1982年の国連世界食糧計画(WFP)経由の食糧援助を始めとして、草の根・人間の安全保障無償資金協力、技術協力、無償資金協力、さらに円借款等を活用して、エスワティニ王国の貧困削減努力を支援しています。

今回は、草の根・人間の安全保障無償資金協力のプロジェクト「ルボンボ県北マツアンジェニ地区給水設備整備計画」を紹介します。

エスワティニ王国の71%を占める農村部では各家への給水設備がなく、最寄りの井戸や河川から生活用水を得ています。しかし、2016年は全国的に過去最悪といわれる干ばつが発生し、最寄りの河川や既存の貯水池が干上がる事態に見舞われました。近場で水が得られないため、水汲みを担当している女性や児童は生活用水を得るために毎日片道5km先の井戸まで歩いて取水する必要に迫られました。

体力的な問題から生活用水を取水するために遠方まで行くことができない住民は近場の汚水を生活用水として使用せざるを得ない状況に陥り、下痢やコレラ等の病気にかかる住民も現れるなど地域住民の衛生環境に深刻な問題が生じました。

このような背景のもと、日本政府は国際 NGO であるサースト・プロジェクトによる、ルボンボ県北マツァンジェニ地区への給水設備を導入する計画に対し草の根・人間の安全保障無償資金協力を行いました。日本の資金協力により設置された給水設備により、1,500人の住民が安全で清潔な水へアクセスできるようになり、地域住民の衛生環境が大きく改善されました。さらに地元の女子児童たちは水汲みの労働から解放され、毎日安心して学校に通学できるようになりました。プロジェクトの供与式では困窮から解放された地域住民の方々が「日本ありがとう！日本ありがとう！」と何回も歌いながら伝統ダンスを踊って喜びを表現しました。

